広告　企画・制作/大毎広告株式会社

5月12日 国際看護師の日

5/12sun~18sat 看護週間

ナイチンゲール誕生の日に看護の原点を見つめて

豊田久美子 京都府看護協会会長に聞く

高齢社会や医療が著しく進展しているなかで、看護職への期待が高まっています。きょう5月12日は国際看護師の日。近代看護の創始者として知られるフローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。長く続いたコロナ禍のもと、エッセンシャルワーカーとしての看護職の重要さを再認識させられました。安心して看護を受けられる社会に向けていま、何が求められているのか。京都府看護協会の豊田久美子会長にその現状と課題をお聞きしました。（池田知隆）

豊田 久美子（とよだ くみこ）

略歴：富山県出身。専攻は基礎看護学。京都市立病院など9年の臨床経験の後、京都府医師会看護専門学校専任教員、京都大学医療技術短期大学講師、滋賀医科大学医学部助教授、滋賀県立大学人間看護学部教授、京都市立看護短期大学教授、同学長、京都看護大学学長などを経て2022年から同協会会長　（撮影　金子裕次郎）

―コロナ禍が長引き、大変でしたね。

あらゆる現場での看護職の確保が一番大変でした。初期の頃は新型コロナウイルス感染症の実態がつかめておらず、感染は拡大し現場はどこも大混乱でした。ベッドサイドで看護にあたるあるいはワクチン接種を行う看護師、地域の感染状況を把握し一人ひとりに適切な治療や療養へとサポートするとともに感染蔓延を防ぐのに保健師などが懸命に従事しました。自らも感染の危険性を抱えつつ、人々の傍に寄り添い続けた看護職を誇りに思います。それを支えたのは専門職としての使命とプライドだったことでしょう。感染拡大時には、当会においても未就業の看護師などを募集して派遣調整・運用を鋭意担いました。そのとき、ナイチンゲールからの宿題を解いているようでしたね。

―それは、どういうことですか。

ナイチンゲールは「看護とは、新鮮な空気を適切に与えること」と言っています。有名な「看護覚え書」の第1章は「換気と保温」で、室内の空気を外の空気と同じく清浄に保つことの大切さを語りかけています。患者さんが吸い込む空気の清浄化について、私たち看護職は関心を持っていただろうか、と考えさせられたのです。

コロナ禍では「3密」が叫ばれ、一定の距離、マスク、最小限の会話が求められ、食事もみんなで一緒にできなくなりました。それまでの細々とした当たり前の生活がとても重要だと痛感しましたよね。その日々の食べること、眠ること、排泄すること、動くことなどの有りようと積み重ねが人の健康を作っていく。一日の時間が流れて次の日になっていく。その流れを大切にしながら、「患者の生命力の消耗を最小にするように（生活を）整えること」が看護の原点だとナイチンゲールは言っています。看護の専門職としてどう対応していくのか。この間、保健師、助産師、看護師の看護職が一緒になって難局に取り組み、学んだことがよかったですね。一丸になることで相互理解も深まりました。

―いま、看護師の不足が指摘されています。どう対応されていますか。

看護師の確保には新規採用を増やす一方で離職者を防ぐこと。さらに辞めておられる潜在看護師に復職していただく。切り札はプラチナナース（定年退職後の看護職）の確保です。

看護師はこれまで高校生の18人に1人になっていたのですが、18歳人口はだんだん減り2040年では12人に1人入学していただく必要があります。そこで、様々なイベントにおいて、キッズを対象に看護体験、白衣を着てもらうなどのイベントを行い早期から看護職に興味をもってもらえるようにしています。

看護師採用にあたってはまず、学生時代から生涯にわたって学んでいけるプログラムやキャリア制度を整備していかなくてはなりません。モチベーションをいかに保ってもらえるか。先が見えることも大事ですし、臨床、新人教育、中堅となっていく各段階でのサポートも欠かせません。ストライクゾーンを広くとって多くの看護志望者を受け入れ、いっしょに看護の未来を切り開いていこうと努めています。

当会が実施した2022年度調査（京都府委託事業）によると、アンケートに回答していただいた京都府内145病院（回収率90・6％）のうち、75・9％が不足を訴えていました。病床数の違いや地域による格差もありましたが、不足数は710人でした。離職者についてみると、全体で2647名（12・1％）とほぼ前年度の横ばいで、在職年数別では「5年以内」「10年以内」が21％と高く、3年以内を合計すると41％に上ります。その理由としては、「看護の他職場への興味」「結婚・転居」が多くなっています。

―看護職の処遇改善は。

今回の診療報酬改定で看護職の処遇は少し改善されましたが、課題は尽きません。

看護師の場合、20代の頃は賃金が高いのです。夜勤しているからです。しかし、年齢を重ねるうちに一般労働者や医療関係他職種の平均賃金より下回り、30代以降は追い付かれ追い抜かれ、そのうちに「寝たきり賃金」となります。一般では役職に就くことで昇給しますが、看護職員は職員数に対して管理職ポストが少なく、大多数がその機会に恵まれません。専門看護師、認定看護師や特定行為を担っている方々にも適切な処遇はなされていません。

看護師はいま、病院にも地域にも24時間います。訪問看護師は、携帯で呼びだされれば、すぐに駆けつけています。そうして人々の命と暮らしと尊厳を守っている看護職への理解をもっと社会に求めていきたいですね。

―看護師のキャリア支援も大きな課題ですね。

現在、協会内に看護職連携キャリア支援センターの開設準備に取り組んでいます。看護職を辞める理由は結婚、転居が大きい。でも、それよりも多いのは他の職場への興味なのです。超高齢社会の進展の中で全世代型地域包括ケアシステムは医療と暮らしを一体と捉え、いつでも、どこでも、誰にでも質の高い保健・医療・福祉・介護などのサービスを必要時に切れ目なく提供することを目指しています。

一方で、最近の病院は高度急性期・急性期・回復期・慢性期といった機能別になってきており、看護師は一病院においてそれらを横断的に経験することは困難になっています。患者さんの病期に応じて特色ある看護を経験したいと思う看護師が多いことは理解できますし、専門性を発揮する場は地域のクリニック、病院、高齢者施設、訪問看護などに拡がっています。

そこで、看護師に、現在のところに在籍したままマッチングできた病院・施設で研修し、看護力をアップし看護の魅力をさらに見出す機会を提供するようにしていきたいと思っています。看護師の生涯学修を支援しキャリア発達に繋げることができる仕組みを構築し、京都に看護師の就職者を増やすのも狙いの一つです。

―訪問看護の需要も高まっていますね。

訪問看護の施設がたくさんできていますが、閉鎖していくところも多い。そこで昨年、当協会で訪問看護総合支援センターを設けました。訪問看護の管理者に運営・経営・開設相談、研修や小規模のステーションが多いため交流会を開催し情報交換や意見交換の場も設けています。今後ますます需要が高くなる在宅医療の担い手として訪問看護の質の向上と訪問看護師のキャリアを応援していくようにしています。

当協会では地域の要請を受けて1997年から順次天橋立、宮津、南京都に3つの協会立の訪問看護ステーションを設置してきました。京都府は北部から南部まで細長く、各地域にあった看護をしていかなければいけません。地域の特性に応じて潜在的ニーズをも見抜いていくような看護力をつけていきたいですね。

―ICT（情報通信技術）の導入については。

日本看護協会が業務の効率化先進事業として効果的な事例を挙げていますが、一番は訪問看護の現場での患者さんのデータの共有です。遠隔地で医師、多職種との連携、相談、また、業務の時間の減少にも活用できます。

看護記録の精度も上がり、患者情報を集積した看護計画を立てて看護職がその患者さんに関わることもできます。

施設内看護でも、患者さんが転倒、転落したデータを集積してAI（人工知能）で活用すれば、どんな人がどういうときにどういうふうに転倒しているか、などの転倒・転落のリスク判定ができます。

さらにロボットの活用もあります。特にコロナ禍では、ロボットが決められたところに物を運んでくれるので役立ちました。自宅で、「お変わりありませんか」「お薬の時間ですよ」等と声をかけて体調を見守り、適宜医療者に繋いでくれるロボットが備えられる時代も近いかもしれませんね。

―看護師から見た医療制度の課題は。

生産年齢人口が減少し社会保障費の確保が厳しくなる中で、国民皆保険制度をどう継続できるかが一番の課題です。10数年前、英国と米国に行きましたが、日本の国民皆保険の仕組みはよくできていると改めて感じました。地域格差が若干あるにしても、皆が等しく必要な医療を受けることができます。

当時、英国のホスピスで「ここが終の棲家ですか」と聞くと、「いやいや、ペインコントロールしたら地域に帰っていただきます」という答えでした。英国の国民保健サービス（NHS）でも国全体で医療費を節減しています。米国の代表的な医療機関、メイヨークリニックには世界中から患者が集まってきますが、入院期間は数日です。患者はそこで手術だけをして、周辺のアパートで暮らしながらメイヨーで治療を受けています。

医療制度はそれぞれの国の歴史のなかで作られてきました。この国民皆保険の制度を残していくには、健康寿命を伸ばし、終末期の備えをするACP（将来の医療及びケアについて話し合い、本人による意思決定を支援する取り組み。人生会議）を広めていかなくてなりません。看護職は地域のどこにでもいますので、最も身近な存在として頼っていただきたいです。

―安心して看護を受けられる社会に向けて一言。

ナイチンゲールは「看護はアート（芸術）＆サイエンス（科学）」とも言っています。患者さんの変化を五感で受け止めて、呼応してケアを作り出していく。サイエンスはやはり根拠に基づかなければなりません。看護の追求は尽きることはありませんね。

公益社団法人 京都府看護協会

京都府で働く保健師・助産師・看護師・准看護師を対象とした専門職能団体。
看護の質の向上、府民の健康な生活に応える看護の提供、看護職が働き続けられる環境づくりに関する様々な事業を展開している。

〒606―8111 京都市左京区高野泉町40-5
電話 075-723-7195　会員数 約17,000人

社会医療法人 岡本病院（財団）

京都岡本記念病院 看護部

京都府久世郡久御山町佐山西ノ口 100 番地

当院は京都府南部に位置する 419 床の急性期病院です。看護部の理念は「いつくしみの心で責任ある看護に努めます」とし地域を支え地域に支えられる基幹病院です。常に変わりゆく時代の中で、最先端の医療の展開とそれに伴う教育に力を入れています。また、専門・認定看護師等の専門職は30名以上になり、自身のキャリアプランをかなえる経済的支援はもとより、手当も充実し処遇改善を積極的に行っています。働き方改革のもと、急性期で忙しい病院でありながら「帰れる・休める」職場を目指して取り組みを始めています。職員ひとり一人のライフスタイルを大切に、子育てをしながらのキャリアを積める職場であります。隣地には来年の春（2025.4）に慢性期 100 床の同法人病院が開院予定です。

看護部長　下岡 美由紀

医療法人 回生会

京都回生病院 看護部

京都府京都市下京区中堂寺庄ノ内町 8-1（松原通七本松西入ル）

プラチナナース雇用の取り組み

当院では昨年より60歳以上のセカンドキャリア看護師（プラチナナース）の雇用を積極的に取り組んでいます。患者様の意思決定を十分に支援できる知識と経験豊富な看護師を増やし、質の高い看護の提供を目的としています。プラチナナースの日々の業務に決まりはなく、各々がしたい看護を見つけて、経験を活かし働いています。ケアをしながら患者様とコミュニケーションをとり、患者様の思いを引き出し意思決定支援に注力してくれています。プラチナナースからは「忙しいけど楽しいし、したい看護ができて幸せを感じる」という声が聞かれています。そんな大先輩の姿を見て、「看護師の仕事って素晴らしい」と若い看護師が気づくのも時間の問題だと感じています。

看護部長　門 真由美

社会福祉法人 京都社会事業財団

京都桂病院 看護部

京都府京都市西京区山田平尾町17

京都桂病院は、地域の基幹病院としてがんや急性期・高度急性期の医療を提供しています。ICU/SCU/HCUが開設し、救急を強化して地域に必要とされる病院を目指しています。病院のビジョンである「一番大切な人を受診させたい病院になる」「治療を受けてよかった、治療を受けたい病院になる」「働いてよかった、働きたい病院になる」ために、多職種が協働し医療を提供しています。当院の院章に使われている「かつらの木」のように、太く大きく成長し、真心を添えた看護（ハートの形をした葉）、癒し、安心を提供（甘い香りのする落葉）できるような看護師を育成するために京都桂病院看護部では、一人一人の看護師の成長を見守り支援します。**「照らす。あなたを、みらいを」**

看護部長　谷口 文代

医療法人 同仁会（社団）

京都九条病院 看護部

京都府京都市南区唐橋羅城門町 10

看護師としての誇りとやりがい

ひとりひとりの患者さんに、どんな看護が最善かを常に考え、患者さんの心に寄り添った看護を実践しています。そして、スタッフ一人ひとりの個性を尊重し、それぞれがいきいきと働けるような環境づくりに努めています。

当院の看護師は、患者さんや地域の方が住み慣れた環境で安心して暮らしていけるように、高度な医療技術と共に、家族のような支えを日々の看護に込めて、誇りとやりがいを持って質の高い看護ケアを提供しています。

今後も地域に必要とされる病院であり続けるための努力と改革を続けます。スタッフは前向きな姿勢を持ち続け、急性期医療から在宅支援まで良質な医療を安定的に、さらに最大限最高の医療を提供します。

副院長（看護部長）南田 喜久美

医療法人 知音会

京都新町病院 看護部

京都府京都市中京区西六角町 109

全床、地域包括ケア病棟である京都新町病院は、急性期病院で治療を終え、在宅療養を目指す患者様や、自宅・介護施設で療養中、急に病状が悪くなられた方の入院を受け入れている他、介護負担軽減のため、レスパイト入院もお受けしています。2040 年に向かい一層高齢化が進む中、これまで住み慣れた自宅で、自分らしく日常を生きるための在宅移行プロセスを、最長 60 日間の入院期間中に多職種が一丸となり支援します。家族と食卓を囲んで一緒に食べたい。という希望や、お風呂が好きだから、何とかお風呂に入りたい。など患者様、ご家族様の「こうありたい」という思いに寄り添い、叶えていくことが地域のみなさまに貢献できる重要な使命と考えております。是非 QR コードからご確認ください。

看護部長　森下 治代

社会医療法人 京都博愛会

京都博愛会病院 看護部

京都府京都市北区上賀茂ケシ山 1

京都博愛会病院は、昭和３年に結核保養院として創立した歴史ある病院です。昭和35年に精神科病棟を併設し現在の原型ができました。一般科と精神科を併せ持つ数少ない民間病院です。急性期から慢性期に移行した患者を受け入れる役割を担っています。併設する訪問看護ステーションでは介護保険、医療保険、精神科訪問と幅広く対応しています。精神科においては身体合併症の受け入れ病院であり、デイケアも併設し、在宅部門の拡充にも取り組んでいます。

病院理念「博愛・協調・健康」のもと、患者の視点に立った、人間性豊かな看護の提供を目指し、全ての場面で看護職が活躍しています。そして、職員一人一人を大切する古き良き風土を残しながら新たな時代に対応する柔軟な看護部でありたいと願っています。

看護部長　長谷川 寿子

医療法人 京都翔医会

西京都病院 看護部

京都府京都市西京区桂畑ヶ田町 175 番地

当院は、国道９号線と桂川街道の交差する地に昨年３月新築移転しました。急性期、回復期リハビリテーション、地域包括ケア、障害の4病棟で構成199床のケアミックス病院です。整形外科、消化器内科外科、透析、訪問診療を柱に日々患者さんに安全安楽な療養生活を送っていただけるよう研鑽しています。周術期や急性期、リハビリテーション看護に退院支援等幅広い看護を提供させていただいている病院です。

新築移転後、救急や手術件数の増加、診療科も増え私たち看護師も日々学ぶことがたくさんあります。忙しさもありますが、学ぶ楽しさを患者さんの「ありがとう」に変えられる病院、看護部にしていきたいと思います。
是非ご一緒に、京都での看護に「いいね！」を増やしましょう。

看護部長　和田 めぐみ

一般財団法人 日本バプテスト連盟医療団

日本バプテスト病院 看護部

京都府京都市左京区北白川山ノ元町 47

当院は、キリスト教精神に基づく「全人医療」を基本理念に掲げ、地域に根差した急性期医療を担っています。病床数167床でNICU（新生児集中治療室）やホスピス病棟を有し、周産期医療から終末期医療まで幅広い医療を提供しています。

看護部では、全人医療の実践を目指し看護専門職の自律とチームの協働を推進しています。特に力を入れているのは「人材育成」と「働きやすい職場づくり」です。看護職の育成のために卒後教育計画の充実と院外研修や認定看護師研修等、併設する老人保健施設や訪問看護ステーションの研修を推進しています。さらに接遇にも力を入れています。また、看護職一人ひとりの健康やワークライフバランスを保ち、互いに成長できる環境づくりに努めています。

看護部長　岩井 和美

医療法人 寿尚会

洛陽病院 看護部

京都府京都市左京区岩倉上蔵町 143

当院は、緑豊かな恵まれた環境で地域の皆様のいのちを守るために歩んできました。

急性期病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟の３病棟に加え、透析センターやリハビリテーションセンターも運営しており、患者さまの病期に合わせ、そして安心して退院することができるようになるまで支えていくことを念頭に置き、看護を実践しています。

また、慣例にとらわれず新しい発想を取り入れ、やりがいや働きやすさを実現できる、そんな職場を目指しています。
地域の医療機関と連携を取り、ひとりひとりの患者さまと向き合い「洛陽病院に入院して良かった」と言っていただけるように、あなたのやりたい看護を一緒に実現しましょう。

看護部看護副部長　前原 妙子
看護部看護副部長　賀幡 昌子